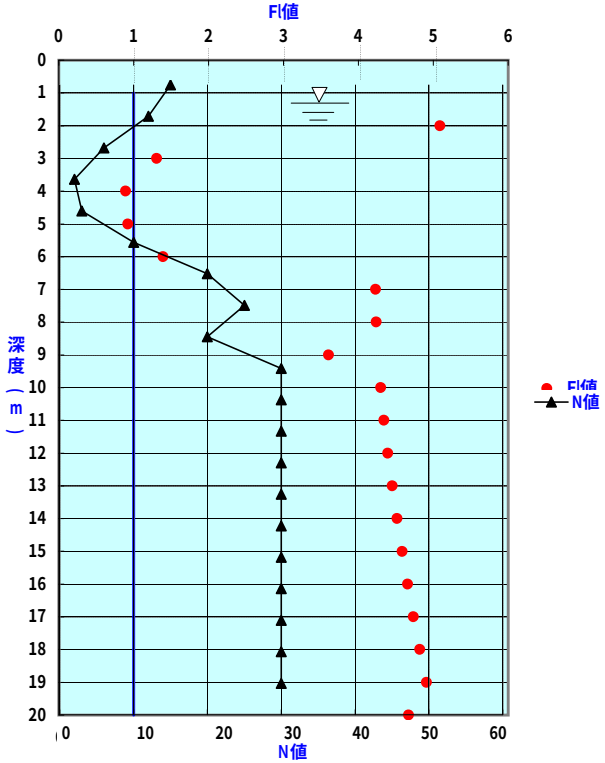
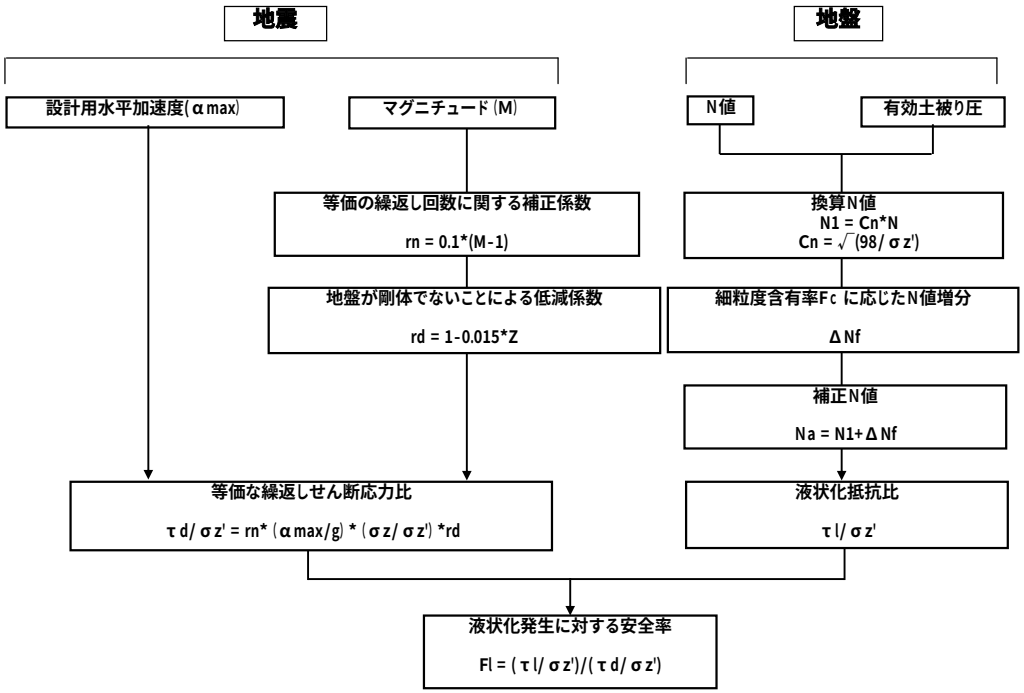
※Fl値が1より大きい土層は液状化発生の可能性がないものと判断し、逆に1以下はその可能性があると判断する。

ＦＬ値（Fl）とは、液状化に対する安全率であり、基礎指針では、地盤内のある深さでの地震時に加わる繰返しせん断応力振幅（τd）に対する液状化抵抗（τl）の比率（Fl＝τl/τd）として定義されている。
また同指針では、Ｎ値と繰返しせん断応力振幅(τd）から、図のせん断ひずみ振幅5％の曲線を用いて液状化判定する方法が示されている。
また、液状化危険度は、「Fl値が1より大きくなる土層については液状化の可能性はないものと判定し、逆に1以下となる場合は、その可能性があり、値が小さくなるほど液状化発生危険度が高く、また、Fl値が1を切る土層が厚くなるほど危険度が高くなるものと判断する。」と示されている。
すなわち、ＦＬ値は「液状化が発生する可能性」を示す指標である。

Dcy値と液状化の程度の関係

Dcy（cm）	液状化程度
0	なし
5以下	軽微
5を超え10以下	小
10を超え20以下	中
20を超え40以下	大
40を超える	甚大

PL値と液状化の危険度の関係

PL	液状化の危険度
0	かなり低い
5以下	低い
5を超え15以下	高い
15を超える	極めて高い

N値（Fl値）－深度の関係